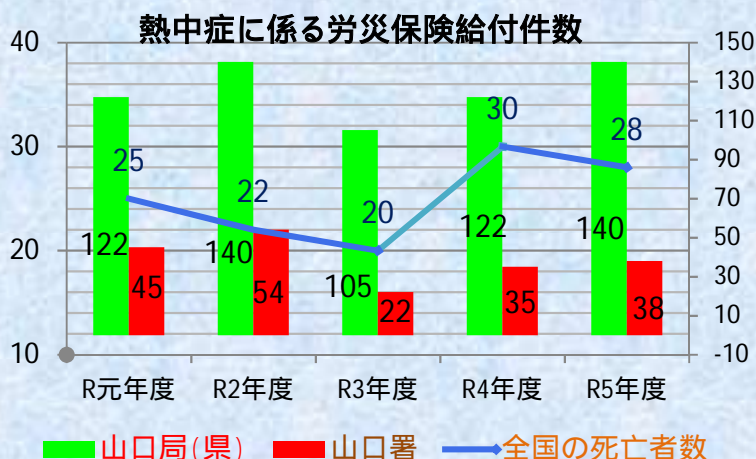


今夏も防げ 熱中症！！(STOP！熱中症)

令和5年の山口労働基準監督署管内での熱中症による労災保険給付件数は前年に比べ増加しました。全国の死亡者数は前年に比べわずかな減少にとどまり、**山口署管内においても死亡災害が発生しました。**死亡災害では被災者の救急搬送が遅れた事例が見られます。

治療により症状の回復が早い方が多いことから、少しでも体に異変を感じた時は、**ためらわず、病院にかかりましょう！**



1 令和5年の山口県内での休業4日以上熱中症の発生状況(全10件)

発生月	時刻	業種	症状の様子	年齢	性別
1	17時台	農業	草刈り作業中、倒れているのを発見され、死亡。	20代	男
2	11時台	建設業	草刈り作業中、倒れているのを発見され、死亡。	60代	男
3	17時台	警備業	交通誘導中、突然倒れ、死亡。	50代	男
4	11時台	建設業	型枠解体作業中、痙攣、休業10日。	70代	男
5	17時台	建設業	舗装工事中、足の痙攣、休業5日。	20代	男
6	14時台	小売業	屋内で調理作業中、体調が悪くなる、休業6日。	20代	女
7	15時台	清掃業	屋外で片付け作業中、めまい、休業7日。	40代	男
8	8時台	保健衛生業	草刈り作業中、めまい、休業30日。	40代	男
9	10時台	清掃業	清掃作業中、めまい、休業5日。	60代	女
10	11時台	清掃業	交通誘導中、めまい、休業30日。	70代	男

2 準備期間中(4月)にきちんと実施されているかを確認し、チェックしましょう。

～ 準備期間(4月) 5月から9月はクールワークキャンペーン ～

事業場ごとに熱中症予防管理者を選任し熱中症予防の責任体制を確立しましょう。

JIS規格に適合した暑さ指数計を準備し、点検しましょう。

暑さ指数に応じた休憩時間の確保、作業中止に関する事項を含めた作業計画を策定しましょう。

暑さ指数低減のため簡易な屋根、通風または冷房設備、散水設備の設置を検討しましょう。

冷房を備えた休憩場所や涼しい休憩場所の確保を検討しましょう。

透湿性と通気性の良い服装を準備、送風や送水により身体を冷却する機能をもつ服の着用も検討しましょう。

緊急時の対応を確認し、労働者に周知しましょう。

管理者、労働者に対する教育を実施しましょう。



キャンペーン
概要

キャンペーン期間（5月～9月）にすべきこと

STEP
1

暑さ指数の把握と評価

JIS規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数を随時把握
地域を代表する一般的な暑さ指数（環境省）を参考とすることも有効



環境省
熱中症予防情報
サイト

STEP
2

測定した暑さ指数に応じて以下の対策を徹底

暑さ指数の低減	準備期間に検討した設備対策を実施
休憩場所の整備	準備期間に検討した休憩場所を設置
服装	準備期間に検討した服装を着用
作業時間の短縮	作業計画に基づき、暑さ指数に応じた休憩、作業中止
暑熱順化への対応	熱に慣らすため、7日以上かけて作業時間の調整 新規入職者や休み明け労働者は別途調整することに注意
水分・塩分の摂取	水分と塩分を定期的に摂取（水分等を携行させる等を考慮）
プレクーリング	作業開始前や休憩時間中に深部体温を低減
健康診断結果に基づく対応	次の疾病を持った方には医師等の意見を踏まえ配慮 糖尿病、 高血圧症、 心疾患、 腎不全、 精神・神経 関係の疾患、 広範囲の皮膚疾患、 感冒、 下痢
日常の健康管理	当日の朝食の未摂取、睡眠不足、前日の多量の飲酒が熱中症の発症に影響を与えることを指導し、作業開始前に確認
作業中の労働者の健康状態の確認	巡視を頻繁に行い声をかける、「バディ」を組ませる等労働者にお互いの健康状態を留意するよう指導
異常時の措置	少しでも本人や周りが異変を感じたら、必ず一旦作業を離れ、病院に搬送する（症状に応じて救急隊を要請）などを措置 全身を濡らして送風することなどにより体温を低減 一人きりにしない

重点取組期間（7月）にすべきこと

暑さ指数の低減効果を再確認し、必要に応じ対策を追加

暑さ指数に応じた作業の中断等を徹底

水分、塩分を積極的に取らせ、その確認を徹底

作業開始前の健康状態の確認を徹底、巡視頻度を増加

熱中症のリスクが高まっていることを含め教育を実施

体調不良の者に異常を認めたときは、躊躇することなく救急隊を要請